

# 子どもの心の診療 中央拠点病院事業報告

平成21年3月26日



 国立成育医療センター  
National Center for Child Health and Development

## 平成20年度事業報告

### ◆都道府県拠点病院とのネットワーク構築

#### ①ネットワーク会議

- ・第1回会議開催（平成20年10月24日）
- ・各拠点病院による事業計画等の概要説明
- ・子どもの心の診療に関連する課題、事業展開、事業評価に関する議論

⇒来年度予定（2回/年 5月および12月頃を予定）

#### ②ホームページ開設

（一般向けページ、拠点病院向けページ（会員専用サイト）

の作成）

- ・一般向けページおよび拠点病院向けページ開設
- ・一般向けページの追加機能作成中

⇒来年度予定（関係する研究等の報告書を掲載予定）

2

## ◆ 成育医療センターにおける研修事業

- ① ネットワーク会議と同じ日に研修
    - ・ 医療関係者向け研修 : 「虐待について」
    - ・ 都道府県担当者向け研修 : 「発達障害の最近の考え方」
  
  - ② 各都道府県拠点病院からの依頼による研修
    - ・ 大阪府立精神医療センター松心園 へ1日研修  
(平成20年5月27日)
- ⇒ 来年度予定
- ・ 長崎県立こども医療福祉センター  
臨床心理士1名の実地研修 (2~3日程度) 予定

3

## ◆ 専門家派遣事業

- ① 重大な社会的問題への専門家派遣
  - ・ 今年度は該当なし
  
- ② 講師紹介事業または講師派遣
  - ・ 大阪府立精神医療センター松心園 (平成21年1月9日)  
「子どものうつと関連する行動の問題」  
国立成育医療センターこころの診療部  
医長 笠原 麻里
  
  - ・ 静岡県立こども病院 (平成21年1月30日)  
「小児病院におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学」  
国立成育医療センターこころの診療部  
医長 笠原 麻里

4

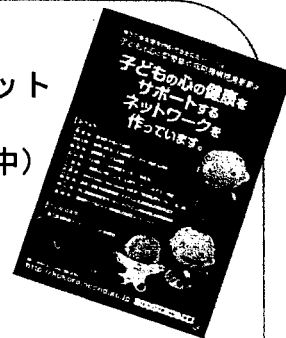
## ◆拠点病院からのコンサルテーション事業

- ①拠点病院関係者の相談(電話相談、来院相談)  
設定完了
- ②セカンドオピニオン外来(患者さんの来院相談)  
設定完了

5

## ◆普及啓発・情報提供事業

- ①拠点病院事業理解のためのパンフレット  
やリーフレットの作成  
・ポスターおよびチラシ作成(印刷中)  
各拠点に配布予定  
⇒来年度予定  
シンポジウムの開催 12月か1月頃
- ②ホームページを通して情報提供  
⇒来年度予定  
コンテンツの充実



6

## ◆調査研究事業

①各拠点病院による受診患者の障害名などの実態把握

⇒来年度予定

平成21年度分を22年度初期に把握

②それを基にした共有データベース構築の可能性を検討

- ・事業評価に使える共通の年度統計の作成
- ・各拠点病院にて利用可能なデータベースの構築の可能性を探る

⇒来年度予定

平成21年度分を22年度初期に把握

③各拠点病院と地域の連携の実態を把握する

⇒来年度予定

平成21年度分を22年度初期に把握

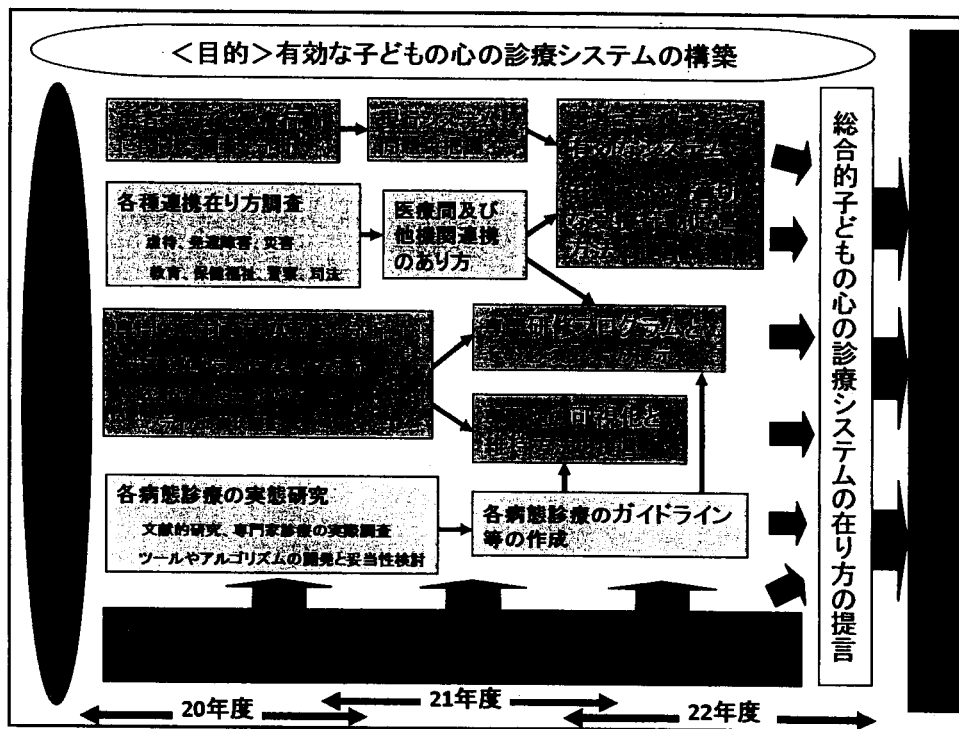
7

## 事業を支える研究に関する報告

平成20年度厚生労働科学研究 子ども家庭総合研究事業

子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究

8



### ◆子どもの心の診療システムに関する研究

- 【目的】**子どもの心の問題に気付いてから専門医療機関受診までの経緯および受診後の状況を明らかにして適切な受療に対する支援の在り方を探る
- 【方法】**全国の子どもの心の診療専門医療機関15ヶ所(次スライド)を受診した患者さんの親に無記名のアンケート調査。最初の一週間のみ医師の記入と照合。
- 【期間】**全受診者1ヶ月、初診のみ2か月
- 【対象数】**各医療機関の最低数30とし、全体で3,000～4,000を目標とした(1月現在、3658通返送)
- 【分析】**予備的に、11月末までに返送された2,085通を入力して分析を行った。

### I. 属性

- N=2,085 (調査継続中のため回答率は不明)
- 内、医師評価ありN=1,426
- 平均年齢: 12.2歳 (SD:0.1)
- 男子: 66.5%

### II. 受診までの経緯

- 症状に気付いたとき、どの機関に相談すればいいかお困りになりましたか?
  - 非常に困った、やや困ったが 62%
- 症状に気付いてから子どもの心の専門病院を受診するまで、どのくらいの期間がかかりましたか?
  - 6ヶ月以内が35%
  - 平均2.2年 (SD:2.6年)
- 専門病院を受診する前に他の機関で相談されましたか?
  - ハイが84%
  - うち、初めて相談に行った機関は
    - 保健センター(保健所) 23%
    - 病院小児科 15%
    - 小児科クリニック 13%

### • 専門病院をどのようにして知りましたか? (複数回答可)

- もともと知っていた 33%
- 以前に受診した医療機関の紹介 26%
- 保健所・保健センター・福祉事務所 14%
- 学校の先生(保健室の先生)から 11%
- 専門病院を受診している人から 9%
- インターネットで調べた 7%
- 児童相談所 7%
- 親戚や知人に調べてもらった 6%

### III. 診療状況

- 初診: 3.6%、再診: 96.4%
- 再診のうち、診療の満足度
  - 非常に満足している、ある程度満足している、が76%

### IV. 生活上の困難度(数字が大きいほど困難)

- 患者による評価(N=2,085)
  - 初診時: 平均3.6 (SD:1.4)
  - 現在: 平均2.6 (SD:1.1)
- 医師による評価(N=1,426)
  - 初診時: 平均4.2 (SD:0.9)
  - 現在: 平均3.3 (SD:1.0)
- 患者とその患者を診た医師の生活上困難度評価の比較(N=781)
  - 初診時: 患者3.7、医師4.2 ( $p<0.001$ )
  - 現在: 患者2.7、医師3.3 ( $p<0.001$ )

## ◆連携に関する研究

### ①虐待に関する連携

⇒連携の実態調査、モデル作成と実行

### ②虐待連携における医療の役割

⇒乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)の発生数調査において、児童相談所に通告されている数は年間146人、うち11人死亡と推定された。

### ③教育と医療の連携の実態調査

### ④医療と福祉・司法・警察との連携

⇒共通の認識を高めるためのツールの必要性

### ⑤災害時のメンタルヘルスにおける連携

⇒災害後長期の影響が明らかになり、長期的な展望が必要

### ◆専門的医師の育成の在り方に関する研究

- ①研修に関し、実際に専門医を目指す若手医師を対象とした3日間研修を行い、その効果を検討した  
⇒指導体制が比較的整っている機関で働いている医師が半数以上であったが、講義を受けている医師が少なく、第一線の医師の講義は意味があることが明らかになった
- ②専門性の維持・向上に関して、今年度は米国の専門医制度を詳しく検討
- ③コメディカルスタッフの専門的育成として、CLS、心理士、保育士に関して検討

13

### ◆子どもの心の診療標準化に関する研究

- ①被虐待ケースの実態および行動化への対応の実践研究
- ②子どものトラウマ診療に関する、専門的医師への質問紙調査  
⇒エビデンスがあるといわれている治療を実践している医師は少なかった。
- ③心身医学的診療に関しては、ガイドラインの効果に関して測定
- ④子どもの自殺企図に関して、救急外来での自殺未遂者38名（13～18歳）への面接結果を分析し、感情障害が32%、精神科既往歴が63%であった。
- ⑤乳幼児精神医学に関して、診断の妥当性に関して検討
- ⑥行為障害に関して、エビデンスのある診療を検討、実際に発達障害を伴う行為障害にSSTを実施して効果を検討

14

## ◆支援情報システムの在り方に関する研究

ホームページの立ち上げ

3種類のページ

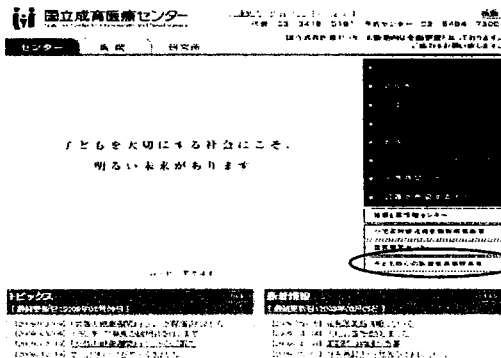
- ・ 一般向けページ
- ・ 本事業の拠点病院ページ
- ・ 研究者同士の意見交換ができる研究者ページ  
Webアンケートができる

(立ち上げは研究班で行い、維持は事業として行う)

15

## ホームページ開設状況報告

①国立成育医療センターのホームページよりアクセス  
<http://www.ncchd.go.jp/>



16



## ②一般向けページと各拠点病院関係者ページ



17

## ◆一般向けページ

- ①お知らせ  
各拠点病院が実施するセミナーや講演会、シンポジウム、公開会議などの情報を掲載
- ②拠点病院事業とは？  
拠点病院について普及させる目的として掲載
- ③全国拠点病院の窓口  
近隣の拠点病院について知って頂くために掲載
- ④困ったときは・・・  
内容について検討中

18

- ⑤よくある子どもの心の問題  
正しい知識や対処方法について、  
普及させるために掲示
- ⑥用語集  
専門的用語について、理解いただくために掲示
- ⑦調査へご協力をお願い  
調査を実施する場合に使用。
- ⑧リンク  
関係諸機関、関連する情報について随時掲載

19

## ◆会員専用サイトページ

- ①サイト管理者からのお知らせページ  
会議開催案内および会議資料などの掲載。
- ②ユーザ共通で確認できるFAQのページ  
他の方にも有用な疑問点をユーザに投稿してもらい、  
サイト管理者が回答を掲載するページ。
- ③参考文献  
参考文献や研究報告の内容等の掲載予定。
- ④掲示板（フリーコミュニケーション）  
各拠点病院間にて情報の交換や、議論が可能。
- ⑤Webアンケート  
Web上で関係者にアンケートを実施中。

20

# 子どもの心診療 支援拠点病院事業 2008

◆ 東京都

## 事業の概要

- 実施主体 東京都福祉保健局
- 拠点病院 東京都立梅ヶ丘病院
  
- 事業開始 平成20年7月1日
- 事業費 13,950千円



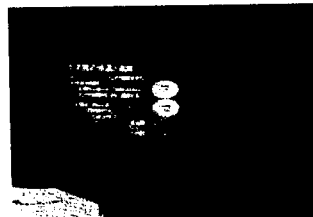
## 主な実施概要

### (1) 小児精神科治療連絡会

- \* 3回
- \* 42名(平均)出席・延72機関参加
- \* 子ども家庭支援センター、薬物療法、少年院における矯正医療など  
テーマ設定型講義・意見交換

#### 【効果】

- 都内外の人的ネットワークの形成  
と医療機関ネットワークの相互作用
- 多角的視点から小児精神医療を展開



## H20年度小児精神科治療連絡会

	日時	場所	テーマ	機関	参加人数
1回	20. 7. 11	梅ヶ丘病院	世田谷区「4.6歳児発達・発育相談」 機関紹介(東大「こころの発達」診療部)	21	42
2回	20. 12. 11	パークホール	梅ヶ丘「児童精神科薬物療法」 機関紹介(東部療育センター)	28	46
3回	21. 3. 6.	新宿モノリス	神奈川少年院「少年非行の現状と少年院における矯正医療」 機関紹介(埼玉医大かわごえクリニック)	23	36

## 参加機関の種別

		第1回	第2回	第3回
大学病院	精神科	1	3	4
	小児科	0	3	1
	計	1	6	5
精神科クリニック *		10	7	6
精神科病院		2	3	2
療育施設		5	6	4
公的相談機関		1	3	2
行政機関		2	2	2
その他		0	1	2
計		21	28	23

## 参加職種

	第1回	第2回	第3回
医師	19	20	14
心理	9	6	7
ソーシャルワーカー	3	8	4
看護師	2	1	2
支援員	4	3	2
教員	1	1	1
事務	4	6	5
その他	0	2	1
計	42	47	36

## 主な実施概要

### (2) 児童青年期臨床精神医療講座

- \* 8回（うち6回を本事業で実施）
- \* 52名登録・30機関参加
- \* 医師に対する児童青年期の精神医療についての専門研修

#### 【効果】

- 子どもの心診療医養成の後方支援
- 医師会からも出席、都内全体での小児精神医療への取組の機運醸成



## 医療関係者向けプログラム

1回目	児童青年精神医療総論	Dr
2回目	① 乳幼児の認知・発達について ② 小児の精神疾患と生理学的諸検査	Dr Dr
3回目	① 児童青年期の心に環境が及ぼす影響 ② 児童青年期の心と環境—家族・学校・友人等	分教室 教員 Dr
4回目	医療機関と児童相談所との連携 —子ども虐待への対応を中心に—	Dr
5回目	① 広汎性発達障害・発達障害の広がり ② 療育プログラム —ショートケアを中心に—	Dr 保育士
6回目	① 精神病圏の疾患 ② 神経症性障害・摂食障害	Dr Dr
7回目	① ADHD・行為障害・ADHD・行為障害・学習障害 ② 幼児・学童期男女混合閉鎖病棟	Dr 看護師
8回目	① 児童青年期における薬物病理 ② 心理テストと各種心理療法的アプローチ	

## 医師関係者向け講座参加者

申込者		参加機関	
医師	37名	総合病院小児科	13機関
心理士	7名	小児科クリニック	7機関
看護師	2名	精神科病院	2機関
精神保健福祉士	3名	療育施設	3機関
大学院生	1名	福祉センター	1機関
作業療法士	1名	児童相談所医師	1機関
大学準教授	1名	精神科クリニック	3機関
合計	52名	合計	30機関

## 主な実施概要

### (3) 関係機関向けセミナー

- \* 1回
- \* 711名出席（関係者19名）
- \* 広汎性発達障害の社会適応支援について

#### 【効果】

- 従来から、福祉保健医療の関係者向けに行っていた「梅ヶ丘セミナー」（通称「梅セミ」）を、本事業に合わせて再構築
- 記録媒体の作成・普及啓発が可能に



## 2008年12月10日 梅セミ 参加者数

		参加者数
1	区部小学校	144
2	区部中学校	88
3	市部小学校	104
4	市部中学校	88
5	特別支援学校	20
6	高等学校	18
7	児童相談所	13
8	子ども家庭支援センター	33
9	教育相談・教育センター	66
10	保健所・保健センター	24
11	精神保健福祉センター	5
12	少年センター	3
13	行政機関	28
14	児童福祉施設・社会福祉施設	75
15	分館	7
16	都立病院・病院経営本部・福祉保健局	13
17	院内	8
18	看護学生など	3
	合計	711

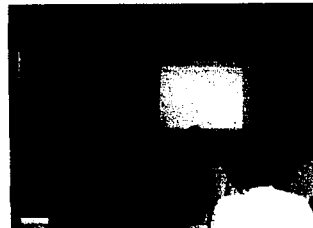
## 主な実施概要

### (4) 教職員向けセミナー

- \* 2日制・1回 対象：保育士・幼稚園教諭・小学校教諭
- \* 43名出席
- \* 「子どもの心の医療」をテーマに研修

#### 【効果】

- 対象者が参加しやすい夏休みに実施
- 座学に加え、課題設定を行うことで、連携と解決力の向上が図れた。





## 教員向け夏季セミナープログラム

1日目		講師
子どもの精神疾患 総論		Dr
いじめ・からかい・虐待		Dr
メンタルヘルスの問題を持つ幼児、学童への対応		Ns
家族への対応		Dr
2日目		
気がかりな子どもへの対応		心理
発達障害児のショートケア		保育士
ネットワークを活用する		PSW

## 教員向け夏季セミナー参加者

職種	参加申し込み数
教員	14名
養護教諭	9名
特別支援コーディネーター	2名
特別支援学校看護師	5名
学童クラブ指導員	2名
特別支援学級補助員	3名
教育相談員	1名
幼稚園・保育園 保育士	5名
その他	2名
合計	43名

## 主な実施概要

### (5) 都民フォーラム

- \* 1回
- \* 708名出席（うち都民624名 関係者84名）
- \* 「現代の子どもが抱える心の問題 発達障害を中心に」  
をテーマに、医療・福祉・教育の立場から講義・シンポ

#### 【効果】

- 都民の発達障害への関心・ニーズの高さを実感。今後の事業展開に。
- 都民の質問・疑問事項の把握



## 現時点での評価

- ① 本事業を契機に、医師向け研修や都民向けフォーラムなど新たな地域支援に係る取組に着手することができた。
- ② 「子どもの心」への取組を、「拠点病院」と具体化したことで、青少年対策など、多分野との連携の契機とすることができた。
- ③ 実施主体と拠点病院を分化、予算要求・プレス対応等の事務実務と、研修・講座等の事業実施を効率的に実施できた。

## 今後の課題

- ① モデル事業中間点としての2年目、終了年としての3年目と、将来像を見据えた実施内容の精査
- ② 事業の評価に向けての指標設定
- ③ 府中キャンパスへの移転と並行しての円滑な事業運営



## 21年度の実施予定

- ・ 小児精神科治療連絡会: 2回
- ・ 医師向け研修会: 8回(予定)
- ・ 関係機関向け研修会(梅ヶ丘セミナー): 2回
- ・ 教職員向け研修会: 2回
- ・ 都民フォーラム: 1回
- ・ 施設職員向け研修会: 1回